

化学部会（2011年6月度）見学・講演会報告

日時：2011年6月16日（木） 15:00～17:00 （共催：近畿支部）

場所：株式会社ナード研究所

国際的な研究開発支援企業をめざして

北庄司 健 株式会社ナード研究所 代表取締役社長

株式会社ナード研究所は、企業の研究所や公的研究機関を対象として化学分野での受託研究をしている企業である。1972年荒川林産化学工業株式会社の技術系役員および研究員がスピンオフして設立したが、当時は研究をアウトソーシングするという考え方がない時代であり、社会的認知もアピールできる研究成果もなかった。しかし創業の精神を大切にし、ベンチャー企業としてマスコミに取り上げられるなど徐々に認知が進み、現在の取引先は民間270社以上、大学・公的機関40以上になっている。

研究開発事業の柱は3本あり、1本目は医薬、農薬、医・農薬の生体代謝物などのファインケミカル合成である。2本目は半導体、ディスプレイ、電池、機能性色素、有機金属触媒などの機能性有機材料の合成、3本目は化合物を組み合わせて新機能を引き出す機能性材料開発である。

近年は、ビジネス環境の変化（クライアント企業の業績悪化、企業体質強化のための合併と研究部門の拡充・内製化）に加え、国内同業他社（規模の拡大と価格競争）や海外企業（特にアジア地区）との競合が厳しくなっている。なお、受託研究の市場は世界的には3兆円以上（日本は4000億円）あり拡大傾向であるが、中国・インド系企業の参入によりコスト競争力のみでの生き残りは難しい。当社をSWOT分析してみると、機会(O)はあり、脅威(S)はM&Aなど大きい。強み(S)として顧客対応スピード、諦めない姿勢、有機合成技術力、独立資本、化学業界でのブランド力がある。弱み(W)は情報収集力、受身のスタイル、営業力、資金力、人材育成のシステム不足、化学業界以外のブランド力などがあげられる。

当社の方向性は、①医薬品関連でプロセス開発をFTE研究で受注し研究終了後製造して納品するタイプの受注の拡大、②受託研究だけでなく自主開発品にも注力（例えばバイオ研究でのリン酸化合物の分離・精製・検出に用いられるフォスタグ製品・技術の展開）などである。将来像は化学技術に秀でた国際的な研究開発支援企業であり、技術水準を高く保ちチャレンジ精神を忘れずに、国際的にも高く評価される研究パートナー企業である。

講演終了後、研究施設・設備を見学させていただいた。

（文責 藤橋 雅尚 監修 北庄司 健）